



# 長寿の未来フォーラム 家族と暮らす ～認知症を“ともに”生きる社会へ～

認知症が進行する中で、本人と家族の思いがすれ違うことは少なくありません。時にはその溝が深まり、自宅を離れて施設での暮らしを選択することもあります。認知症になっても本人が自分らしく生きられるために…。家族の一人が認知症になっても、家族の絆は変わらずに暮らしていけるように…。こういった支援や寄り添いが必要なのか、いまあらためて考えていきます。“認知症とともに”から“認知症とともに”へ。“本人と家族、そして地域が“ともに認知症を生きられる社会”」をテーマに語り合います。

作品名「花と鳥と太陽と」  
【作品提供】米澤 廣人さん

## 2022年 3月6日 日

※インターネットでのライブ配信です

【プログラム】 開演：午後1時 終演予定：午後3時30分

※午後0時30分より主催・協賛からのお知らせを配信します。

■ 基調講演 「認知症を“ともに”幸せに生きるための医療とケア」

井門 ゆかり 井門ゆかり脳神経内科クリニック 院長

休憩

■ パネルディスカッション

# 長寿の未来フォーラム

## 家族と暮らす

### ～認知症を“ともに”生きる社会へ～



基調講演

いもん ゆかり

**井門 ゆかり**

井門ゆかり  
脳神経内科クリニック 院長

広島大学 医学部卒業。同大学院修了。医学博士。2010年、広島県西部認知症疾患医療センター センター長。2015年、広島県西部認知症疾患医療・大竹市認知症対応・玖波地区地域包括支援・合併型センター センター長を経て、2018年4月より現職。日本神経学会 専門医・指導医、日本内科学会 総合内科専門医・中国支部評議員、日本老年医学会 専門医・指導医・代議員、日本認知症学会 専門医・指導医・代議員、認知症サポート医。2013年に井門式簡易認知機能スクリーニング検査を開発。早期発見と適切な対応で、幸せな経過を目指す、認知症診療を行っている。



パネリスト

かたやま さだお

**片山 禎夫**

医療法人社団里慈会  
片山内科クリニック 院長

1988年、広島大学大学院 博士課程修了。広島大学 医学部 第三内科 助手、広島大学 医学部内 講師、国立病院機構柳井病院(現 柳井医療センター)、国立病院機構広島西医療センター、川崎医科大学 神経内科 特任准教授などを経て、2015年に岡山県倉敷市で片山内科クリニックを開業。倉敷市認知症初期集中支援チーム、おかやま若年性認知症支援センター センター長を務める。『NHKスペシャル 認知症はなぜ見過ごされるのか ～医療体制の不備を問う～』、『チョイス@病気になるたとき「認知症とわかったら」』出演。認知症ケア学会 理事、日本認知症学会 代議員。



パネリスト

ふじた かずこ

**藤田 和子**

一般社団法人  
日本認知症本人ワーキンググループ  
代表理事

1961年鳥取市生まれ。看護師として15年勤務。認知症の義母を9年間介護した経験を持つ。2007年に若年性アルツハイマー病と診断された後、地元の鳥取市で認知症の本人としての発信を始め、現在にいたる。鳥取市で、「認知症になってからも自分らしい暮らしを考えるサロン」や、本人同士がともに語り合う「本人ミーティング」、「おれんじドアとっとり」の本人相談員として活動。2020年に、厚生労働省から認知症の本人大使「希望大使」に任命され(2022年1月再任)。2021年6月には、鳥取市認知症本人大使「希望大使」に任命される。著書に、『認知症になってほしいよぶ!そんな社会を創っていいよ!』(徳間書店)。



パネリスト

やまだ こうさく はつえ

**山田 耕作・初江**

徳島県徳島市在住。夫婦で美容室を二人三脚で経営してきた。2017年に妻の初江さんがレビー小体型認知症と診断され、以降約4年間、耕作さんのサポートを受けて自宅で暮らす。2020年頃から幻視や妄想などの症状が強くなり、翌年8月には耕作さんの心労も重なったことから、初江さんは介護施設への入所を余儀なくされた。しかし、妻がいなくなった強烈な寂しさ、初江さんの「帰りたい」という思いを受けて、耕作さんは2か月後に初江さんの退所を決意。再び自宅での暮らしを再開させた。現在も夫婦二人で「認知症とともにある暮らし」を続けている。



パネリスト

ほり みさお

**堀 操**

公益社団法人認知症の人と家族の会  
広島県支部 若年認知症担当

広島県在住。父親と夫との3人暮らし。夫が40代後半で若年性認知症と診断される。夫も自身も不安だらけのなか、担当医の励ましの言葉や、夫の勤務先のサポートにより気持ちが救われる。その後、「陽溜まりの会(若年性認知症の人と家族のつどい)」に参加し「仲間」と出会う。現在は看護小規模多機能型居宅介護、その他各種訪問サービスを利用。高齢の父親は、2019年と翌年の2度の骨折がきっかけで介護度が上がったが、デイサービス、ショートステイなどを利用しながら自宅で過ごしている。二人の介護は決して容易ではないが、多くの専門職の技術や知恵を借り、家族、親戚、友人、近隣の人に見守られながら「今、ここ」で暮らすことができている。介護者も様々な方とつながりを持ち、「ひとりではない」と思えることが大切なかもしれないと感じている。



パネリスト

たけなか ようこ

**竹中 庸子**

特定非営利活動法人  
もちもちの木 理事長

1992年にボランティア団体「レジャンティア」を結成後、特別養護老人ホームの開設に関わり、認知症の方の尊厳ある暮らしのあり方に課題を感じる。2001年「特定非営利活動法人 もちもちの木」を設立し、認知症の方の暮らしを支える活動を開始した。共に活動をしてきた夫ががんになり、3年余りの闘病生活の後、在宅で看取る。地域とともにある法人として、社会変化によって失われていく「家族機能を補うもの」を事業化。介護家族の離職を防止するための支援体制を構築し、地域住民と共に支える活動を行っている。世代間の価値観の対立があっても、人のつながりによって互いに尊厳を持った対話を続けることで認め合い、より良い関係を醸成できると臨んでいる。介護福祉士、認知症ケア専門士。20歳の時、突発性難聴を患い、それをきっかけとした進行性聴覚障がいがある。



コーディネーター

みやけ たみお

**三宅 民夫**

アナウンサー  
立命館大学 産業社会学部 客員教授

1952年名古屋生まれ。75年NHK入局。岩手、京都勤務を経て、85年東京アナウンス室へ。『おはよう日本』『紅白歌合戦』など、さまざまな番組の進行役を担当する。その後、日本のこれからのを考える多人数討論を長年にわたり司会すると共に、『NHKスペシャル』キャスターとして、『戦後70年』や『深海』など大型シリーズも担ってきた。2017年NHKを卒業し、フリーに。現在は、『三宅民夫のマイあさ!<ラジオ第1>のキャスター、『鶴瓶の家族に乾杯』<総合テレビ>の語りなどを務めている。著書に『言葉のチカラ』(NHK出版電子版)。



【作品提供】

よねざわ ひろひと

**米澤 廣人**



作品名「花と鳥と太陽と」

10年前に若年性認知症と診断される。「認知症の人とみんなのサポートセンター」で開催されたアートワークに参加したことをきっかけに、本格的に絵を描きはじめるようになる。現在は「かみやま倶楽部」(デイサービス)でアートワークを楽しんでいる。

広島県民文化センター  
よりライブ配信します。  
(会場での観覧はできません)



躍動する街・広島を中心、大手町・紙屋町の一角にある三角形をシンボライズした明快なコントラストを見せる建物、それが広島県民文化センターです。人と人とのふれあいをテーマに、豊かなコミュニケーションを築くための複合・多機能スペースをご提供いたします。

問い合わせ

NHK厚生文化事業団「長寿の未来フォーラム」係 電話 03-5728-6633 (平日 午前10時~午後5時)